

## スキル習得への道筋

障害児教育講座・立入 哉

### 1. 授業の目的

本講義は聴覚障害児の聴能に関する主にスキル習得を目的とした授業である。補聴器のフィッティングとイヤモールド，集団補聴器，補聴援助システムなどの補聴に関する様々な技術的事項を実習を通して修得すると同時に，教育オーディオロジーの指導法を学習する機会を提供した。

特に前期の聴覚障害検査法に続いて，特定の検査手法を学ぶ内容であり，着実に検査・測定機器を操作でき，結果を評価できるというスキル習得を目的としている。

スキルの習得は段階を踏んで積み重ねることこそ，可能になる。また，必要なスキルについては，実際に検査・測定機器の操作を行い，機器操作に習熟する必要がある。

### 2. 授業の内容

授業は下記の流れと内容で実施した。

- 1) 補聴器の種類と選択
- 2) 補聴器フィッティングの原理と評価法
- 3) デジタル補聴器の原理と評価法
- 4) 実耳測定の方法と評価法
- 5) 聴覚学習の理論と方法

上記の内容について自作テキストで講義，実習指導を行った。自作テキストを進度にあわせて人数分，印刷をして配布した。実習をともなう内容なので，テキストの印刷，実習のための機器準備等に非常に時間がかかり，大きな負担であった。

### 3. 授業の進め方

#### 1) スキル習得を目的とした学習法

前述の通り，スキルの習得には易 難というステップを用意し，それぞれのステップでの確実な技術の習得が必要となる。このため，本授業では，各ステップでのペーパー試験と区切り

ごとの実習の機会を設けた。

#### 2) 小テストによる自己評価

講義内容が技術を学ぶものであるため，小ステップで積み上げることが必要である。授業の翌週に毎回，小テストを行うことは学生にとっては酷であったかも知れないが，確実に実力が付く方法として，学生自身も納得して取り組んでいたように思える。各小テストはテスト終了後すぐに正答を教え，問題を解説し，自己採点させた。

自分がわからなかった箇所，十分に理解できていない箇所を学生自身がわかると同時に，授業者も学生の理解度を把握することができ，正答率が低い課題については再度，説明するなど小テストの意義が学生に伝わるように意識した。

#### 3) 授業時間外での実習時間

測定機器の台数に限りがあるため，授業時間内に必要な実習をこなすことは時間的に不可能である。そこで，主要な実習事項については，個別またはグループごとに実習課題を課し，規定の日時まで提出するように促した。このことにより全受講生がじっくりと機器操作を行い，本講義の主目的であるスキルの習得が可能になったと考えている。また，実習を行うにあたって生じた疑問等々の対応にはTAをあたらせ，TAの能力向上も考えた。

#### 4) 欠席時の扱い

前述の通り，1回の授業の欠席によって，次の講義の内容が理解できなくなることがある。このため，TAを利用し，授業をすべてビデオ録画し，欠席学生にDVDの形で配布，次回の講義参加時までに視聴できるように配慮した。このことにより，全受講者が最後まで授業内容に付いてくることができたと考えている。

4. 評価

1授業を1テーマと定め、各テーマごとに、次の講義の最初にミニペーパーテストや、実習課題を課した。

最終的に全小テストの平均点は79点であり、テストの難易度設定はほぼ妥当であった。

5. 学生の意見の授業への反映

実習形式の濃い内容なので、前述の小テストの成績がすべてを物語っており、授業に関するコメント等は求めなかった。

6. 授業後の反省

共通教育の評価シートをもとに、アンケート調査を行った。結果を下の図に示す。

自由記述には下記の記載があった。

「ビデオを見せてくれたことで、実際の様子が変わりやすかった」

「資料がわかりやすかった」

「わかりやすく、教材が多くて、取り組みやすかった」

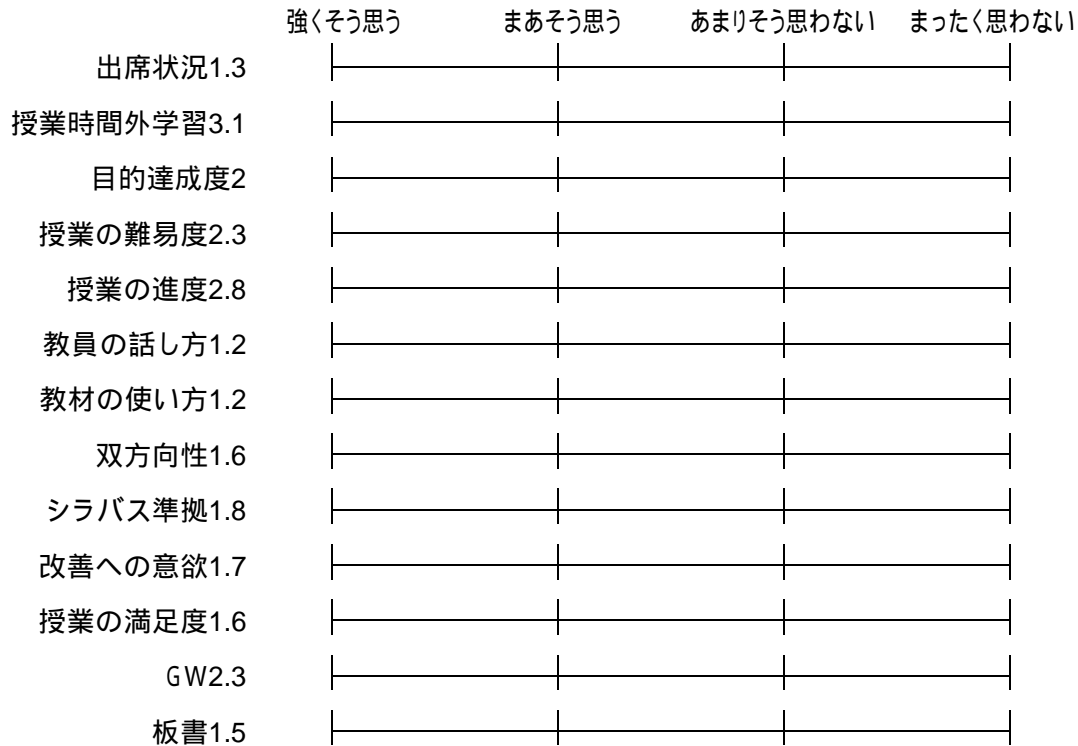
「説明がわかりやすかった」

「資料がわかりやすい」

「説明の仕方がていねいでわかりやすかった」

例年は、内容を積み上げていく講義なので、学生の理解にあわせて進めていったところ、シラバスに表記している予定の内容を終えることができなかった。このため、今年度は内容を精選した。このことにより、規定の時間数の中でシラバスで示した内容をこなすことができた。

昨年度から、スキル習得を目的に、講義時間中に実施方法を提示し、次の講義までに各自でその実習を行うという課題を与える方式を始めた。しかし、このためには、学生の都合の良い時間帯に、実習用の検査・測定機器を操作できる環境が必要である。このために一定期間、実習に用いる機材をセットした状態で演習室に置いておかななくてはならない。しかし、実習に使用する余裕教室がなく、授業のために設置し、期間を定めて、撤収を行わざるを得なく、大きな支障になっている。



図：アンケート調査の結果